

あなたの本棚



新しい本の中から

6月

『図解眠れなくなるほど面白い民俗学の話』 島村恭則 [監修] / 日本文芸社/380.1 ｼﾝ

- 日本人の伝統的世界観「ハレ・ケ・ケガレ」とは？
- なぜ「夜に口笛を吹いてはいけない」の？
- 文化・風習からブームまで、身近にある「俗」を大解剖!民俗学とは何かや、日本民俗学の基礎知識も解説する。
- 昔から言われているけど何故かはわからない。そんな謎を解いてみませんか？



『今と未来がわかる生成AI』

中村俊也/ナツメ社/007.1 ｶｶ

AI の概念と発展の歴史から生成 AI の活用法までを、実生活や仕事に結びつけながら、イラスト・チャートなどの図版を用いてわかりやすく解説。AI の最新事情と将来の可能性、直面する課題についても掲載する。

『書物を楽しむ』

林望/朝日新聞出版/020.4 ｷﾈ

電子書籍なんてまっぴらだ! 古い書物は、こよなき「心の友」だという書誌学者が、紙の本の利点、書店・古書店・図書館との付き合い方、書評の読み方などを綴る。愛読書も紹介する。

『こちら日本中学生新聞』

川中だいじ/柏書房/070.4 ｶｶ

信条は「誰にも遠慮せず書きたいことを書く」。取材対象は大阪・関西万博、森友学園問題…。2023年に『日本中学生新聞』を創刊し、以来、取材と発信を重ねてきた現役中学生記者・川中だいじによるルポルタージュ。

『なぜ人は挨拶するのか』

鳥越覚生/筑摩書房/104 ｷﾝ

スマートな能力主義が浸透した現代で省略されゆく「挨拶」。日常に溶け込んだ挨拶をいろんな角度から見つめ直し、その言語以前にある「気持ち」を探り出す。

『痛みとケアのスピリチュアリティ』

島蘭進/朝日新聞出版/114.2 ｼﾝ

霊的・宗教的枠を超えて人生の意味や価値を求める「スピリチュアリティ」。グリーフケア、水俣病運動、依存症の自助グループ、ひきこもり支援の動きから、新たな死と再生の地平を追う。『一冊の本』連載を加筆修正。

『楔形文字が語る古代オリエント』

小林登志子/新潮社/209.3 ｺﾊ

王から后妃への手紙、麦についての会計簿、世界最初の平和条約…。太古の粘土板に刻まれた楔形文字を読み解き、ウルク、アッカドなどの文明発祥の地、古代オリエント都市で繰り広げられた様々な人間ドラマを紹介する。

『サイエンス日本史』

左巻健男/集英社/210 ｷﾈ

土器、トイレ、建造物、金と銀、鉄、食、漆、品種改良、電池…。日本史の中で科学が特に深く影響を与えてきた14テーマを厳選。興味深いエピソードとともに、時代を動かした偉大な発明を解説する。

『にっぽんの花地図』

はなまっふ/KADOKAWA/291 ｷﾈ

見て読んで訪ねて楽しめる、にっぽんの花の絶景が満載のガイドブック。日本全国のご当地花園を写真愛好家たちの美しい写真で紹介し、お出かけに役立つ情報を掲載する。データ:2026年3月現在。

『災害時、リアルに役立つ!助かるマニュアル』

甘中繁雄 [監修] /大和書房/369.3 ｶｶ

街で地震に遭った、モバイルバッテリーから発火した等々。地震、風水害、天候の急変、火災、山の事故といった危険なシーンごとに、命を守るためにどう行動すべきかを、イラストとともにわかりやすく解説。応急処置も紹介する。

『量子力学で生命の謎を解く』

ジム・アル＝カリ/新潮社/464.9 ｱﾙ 文庫

酵素の高い効率と選択性はどのように実現するのか。「渡り」をする鳥はどうやって方角を知るのか。極小世界を探る量子力学の理論を武器に、電子や陽子の超ミクロ世界から生命誕生や心の不思議に迫る「量子生物学」を紹介する。

『鳥は飛びながら眠る』

渡辺佑基/中央公論新社/481.7 ｸﾞ

サメは横に傾いて泳ぐ、アザラシは一晩に4000回狩りをする等々。超小型センサーやカメラを装着するバイオロギングという手法で覗いた野生動物の面白い事例を紹介し、そうした不思議な進化の起こった理由や道筋を解説する。

『原子力はいる?いらぬ?』

山口昌子/ワニブックス/539 ｷﾈ

激動する国際情勢における日本の行く末を決めるうえで、大きなファクターのひとつであるエネルギー問題。原発大国であるフランス在住のジャーナリストと脱原発のドイツ在住の作家が、エネルギー問題について議論する。

『信頼を着る』

長友妙子/三笠書房/589.2 ｶｶ

ベーシックな装いを武器に「信頼」をまもって、理想の未来を実現しよう。働く女性を支えてきたスタイリストが、「信頼をまとう装いのフレームワーク」をシンプルな3ステップで解説する。

『お米 de パン』

りえ/世界文化社/596.6 ﾘﾈ

お米をミキサーで混ぜて焼くだけ。やっかいな発酵も、生地をこねる作業もなし!基本のパンから、レンチン蒸しパン、お惣菜&おやつパン、米粉ではなくお米でできるパンの作り方を紹介する。

『つぶつぶ生活、はじめました!』

多肉植物つぶつぶ屋/KADOKAWA/627.7 ｷﾈ

自宅のわずかなスペースやスキマ時間で気軽に楽しめる多肉植物。豊富な種類がある多肉植物の中から、葉の部分がぷっくりした「つぶつぶ多肉」を厳選して紹介。品種の選び方から育て方のコツ、トラブル対策まで解説する。

『はじめてのパルダリウム』

佐藤拓郎 [監修] /成美堂出版/627.8 ｷﾈ

ガラスの器の中に緑の風景を作り出したリ、湿地帯の自然を再現したりするパルダリウムの作り方を、初心者に向けてわかりやすく解説する。パルダリウムで使いやすい植物図鑑も収録。

『擬人化の日本美術史』

島尾新/淡交社/702.1 ｼﾝ

日本では、ほんとうにいろいろなものが、軽やかにかつ楽しげに「人のような姿」になり、また「人のように振る舞って」いる。古代から現代へ、連綿と紡がれてきた擬人化表現という試みを、美術史の目線でひもとく。

『子どもを描く』

福音館書店編集部 [編] /福音館書店/726.6 ｸﾞ

「はじめてのおつかい」「おつきさまこんばんは」など、読み継がれる作品を多く描いてきた絵本作家・林明子。雑誌などによせたエッセイやインタビューなどのことばとともに、作品制作の舞台裏を紹介。単行本未収録作品も掲載。

『マンガでわかるケム先生の「手話ほどこき」』

竹村茂/ジアース教育新社/801.9 ｸﾞ

日常生活の様々な場面で使われる手話を、マンガでやさしく手ほどこき。マンガに登場した手話を詳しく解説し、関連する手話もイラストとともに豊富に紹介する。指文字一覧等付き。『聴覚障害』連載を元に書籍化。

『日本語の書き言葉はどう変わってきたか』

釘貫亨/中央公論新社/811 ｷﾈ

漢字にひらがな、カタカナ、ローマ字までもが一つの文に共存する日本語。無文字社会から転じて多様な文字が歴史的に交錯する様相を概観し、それがどのような歴史的文化圏を形成し、日本人の思索を豊かにしてきたかを解説する。

『ぼけていく私』

佐藤愛子/文藝春秋/910.26 ｷﾈ

102歳の作家・佐藤愛子の最後のインタビューを収録。長生きの秘訣などを語る。また、娘と孫が「佐藤愛子」の家と仕事とお金と恋のことを赤裸々に明かす。『週刊文春 WOMAN』連載を単行本化。

『斜め45度の処世術』

小川哲/CEメディアハウス/914.6 ｶｶ

コミュニケーション、人間関係、人生哲学…。世間から2センチ浮いてるSF作家が贈る、苦笑いと共感が止まらない、日々のモヤモヤ解消術。おもしろくってためになる(?)独特の視点が満載。『Pen』連載を編集して再構成。

『眠れぬおまえに遠くの夜を』

桐野夏生/文藝春秋/F ｷﾝ

32歳で遅咲きのデビューを果たし、人気俳優として活躍するパク・テミンは、「終わった男」ことニック・ナダンについて語り始めた。挫折と成功、ふたりの男の運命が交錯する。『文藝春秋』連載を単行本化。

『小さな故意の物語』

東野圭吾/講談社/F ｷﾈ 文庫

メガヒット直前に執筆した知られざる傑作、デビュー直後に編集者から依頼された若き日の1編…。東野圭吾のおすすめ短編「冷たい灼熱」「しのぶセンセの推理」「小さな故意の物語」を収録する。

『ある小説家の死からはじまる物語』

ほしおさなえ/中央公論新社/F ｷﾈ

大学で創作ゼミを受け持つ作家・時任晶子が死んだ。卒業後、恩師の死をきっかけに再び「書くこと」に向き合う教え子5人。一方、時任の最後の作品のラストにはある疑惑が…。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。

また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

※メールアドレスを変更された場合はご自身でホームページより変更手続きをお願いします。



スマホ用ホームページ